

# ぎやふん

10

2019年デジタル版

# 考えろ

最近、よく考えていない。  
そのせいで人生に  
行き詰まっている気がする。

だが、どうやって  
考えたらよいのだろうか？

死  
を考える

幸福  
を考える

考える  
をきえんひ

人生を哲学する  
リトルマガジン

ぎやふん  
ぎや

ぎゃふん⑩試し読み版

芝罘®

考えろ



芝罘工房

最近、よく考えていない。

そのせいで人生に行き詰まっている気がする。

生きるとはどういうことか？ 死とはなにか？ 幸福とは？

考えるべきことは多い。

だが、どうやって考えたらよいのだろうか？

そもそも〈考える〉とはなにかを

私たちは知らないのではないか。

学校で習った覚えはない。

そんなことはだれも教えてくれない。

どうすれば？ いったいどうすればいい？

なにもしないうちから、袋小路に入りこんでしまった。

こんなとき、私たちがとるべき行動は？

他人の力を借りること。先人の知恵を拝借することだ。

はじめに

## 池田晶子先生から 「考えるヒント」をいただく

この場合、ふさわしい「先人」とはだれか。

それは「哲学者」ではないか。

頭にひとりの名前が浮かんだ。

「池田晶子」。

これまでも池田先生の著作からは

さまざまな〈知〉をいただいていた。

この迷える子羊の道標<sup>みちしるべ</sup>となってくれるはず。

今回も、一冊の本を手にとってみる。

『あたりまえなことばかり』。

この本を片手に

〈考える〉ための旅へと出かけてみよう。

あたりまえなことばかり

著者◎池田晶子  
出版社◎トランスビュー

あたり  
まえ  
な  
こ  
と  
ば  
か  
り

池田晶子

はじめに 池田晶子先生から「考えるヒント」をいただく

## 考えるを考える

池田先生のコトバを読む 〈考える〉 ことによって人生の袋小路から抜け出せる

〈考える〉 ことで新しい価値を見出せば自分の人生を救済する

私たちはいつのまにかまちがった考えかたを身につけていた

「世界を革命する力を！」という言葉はこれからの人生のキャッチフレーズだ

## 死を考える

池田先生のコトバを読む 〈死〉 の真実を知れば人生を妨げるものから解放される

死刑否定論者が構築する死刑肯定論 自分が裁くなら死刑は正しい

〈社会契約論〉に對抗する死刑否定論 〈死〉 がわからないから死刑を科せない

## 幸福を考えると

池田先生のコトバを読む 自分の心と世界を区別しなければ〈幸福〉を得られる

40代が人生を学べる最新アニメ7選

● RELIE ● ジョジョの奇妙な冒険 ● 結城友奈は勇者である

● ダーリン・イン・ザ・フランキス ● 少女終末旅行 ● 進撃の巨人 ● このはな綺譚

40代がいま観るべきお仕事アニメ5選

● NEW GAME! ● SHIROBAKO ● 中間管理録トネガワ

● 笑ウセえるすまん NEW ● はたらく細胞

### column アイスブレイク

『ぎゃふん』の原点となった小冊子を発掘

アイディア発想はお気に入りのノートで

防災グッズとして蓄電池を購入しました

『ぎゃふん』制作メモ

## 『ぎゃふん』の原点となった小冊子を発掘

先日、工房の押し入れを整理していたら、本誌の原点ともいべき小冊子を発掘しました。誌名は『わくわく』。サイズはA5版で、全部で7号発行しました。最終号の発行日は昭和62年（1987年）12月1日となっていますから、私が13歳のころの作品ということになります。

このころはコピーや印刷という概念はなく、色紙に、鉛筆や色鉛筆・サインペンなどで文字やイラストを手書きした1点ものでした。内容はゴチャゴチャですが、ゲームやアニメの感想が中心です。ほかにアニメの主題歌の替え歌やイベントのレポート、クイズ、日常の疑問、自作の小説など、それなりにバラエティに富んでいます。

それから30年あまりが過ぎたわけですが、やっていることはいまもまったく変わっていないのであります。



▲紙の色を毎号変えたりして飽きがこないようにしていました。



# 考える を考える

そもそも〈考える〉とはどういうことか？ 〈考える〉とどんな良いことがあるのか。そのあたりをはっきりさせなければ前には進めない。



# 〈考える〉ことによって 人生の袋小路から抜け出せる

考えているから「悩む」ではなく考えていないから「悩む」

「これからどう生きればいいのか」「自分は社会に必要な人間なのか」。人生について考えれば考えるほど苦しくなる。あなたには、そんな経験はないだろうか。

ついつい考えすぎてしまう性格が自分自身を追いこんでいる。もっと気楽に構えていれば、こんな苦しみを味わうことはないのに。ほかの人を見てみる。楽しいことをやって幸せそうに過ごしているではないか。自分もそうすればいい。考えなければいい。考えなければ……。

考えないために、ご馳走を食べたりお酒を飲んだりして気を紛らわす。それもひとつの手かもしれない。もっと健全にスポーツやアウトドアでストレスを解消する方法もあるだろう。そうすることで悩まなくなるのなら、正しい選択に思える。現にそうしている人もいるはずだ。

だが、それで事態は好転するだろうか。そんな疑問も拭いきれない。いま自分が不遇をかこつ

ているのは、現実逃避をしてきたからではないのか。

考えてもダメ。考えなくてもダメ。では、どうすればいい？

私たちは根本の部分で勘違いをしているのではないか。「考える」≡「悩む」という等式が成り立つと思いきも、「考えない」≡「悩まない」の等式を導き出している。そもそもこれがまちがいでないのか。池田先生はこう語っている。

悩むより先に考えなければならぬことがあるわけです。〈悩むより先に考えよう〉と私はよく言うんですけど、正確に考えたら悩むことなんてできなくなるわけですね。つまり問いとしてナンセンスということに気がつくと、人生論的な悩みはありえない。正確に考えてゆくことによって、人生の光景ガラッと変わります。

つまり、考えているから「悩む」のではなく、考えていないから「悩む」。悩むのは考えていない証拠で、考えれば悩まなくなるのだ。

もう少し実的な言い方をすると、きちんと考えていると悩まなくなります。考えることが自分から始まって宇宙にまで広がると、その開放感とか自由感というのはすごいものです。

## 〈考える〉ことは自分自身だけでなく社会も変える

人生の悩みは〈考える〉ことで解消する。そこまではいいでしょう。だが、それこそ体のいい現実逃避であって、物事はなにも解決していかないのではないか。そんな疑問もある。なぜなら、自分の環境は変わっていないからだ。自分の苦悩の原因がまわりの状況、たとえば社会システムにあったとしても、そこに働きかけなければ、問題はそのまま放置されてしまう。

だとすれば、〈考える〉ことに意味はあるのか。池田先生はこう回答する。

考えて何の得になるかということをあえて言うなら、そういう人が増えれば必ず社会は変わります。自覚的に生きる人が増えるわけですから、今は自分の日常がすべてだと思いつ込んであれこれ悩んだり喧嘩したりしているのが、そういうことがどういふことかというところを見る目を持つなら、人は必ず変わるし、そういう人が増えれば、社会も世界も時代も変わります。それは大きな効用だと思えます。

池田先生のこのコトバを敷衍ふえんしてみよう。

〈悩む〉とは人生で足踏みをしている状態で、〈考える〉とは前に進むことなのだと思う。悩ん

でいるばかりでは、その悩みの根本に至らない。考えれば根本を探りあてることが出来る。根本的な原因がわかれば解決策を講じられる。その解決策は、自分の行動や習慣をあらためることかもしれない。環境を変えることが近道の場合もあるだろう。あるいは、社会に働きかけることがもっとも有効な場合もあるはずだ。

《考える》ことがなんらかの行動につながれば、自分自身だけでなく社会も変える。ひいては、それまでの悩みが解消する。逆にいえば、なんの行動にもつながらない《考える》という行為こそが無意味なのだ。

ただし、《考える》ことにそこまで実用性を求めるべきか。「役に立つかどうかだけで物事を判断してはならない」「哲学とはそういうものではない」と反発する人もいるかもしれない。

たしかに、《考える》にどんな実用性があるかを述べるのは、「実用性がある」に価値を置いている証だ。<sup>あかし</sup>裏を返せば、実用性がなければ意味がないと見なしているわけだ。

だが、ここではあくまで人生の袋小路から抜け出すことを目的としたい。その目的を忘れて《考える》のは、それこそ「哲学ごっこ」とか「言葉遊び」のそしりを免れないのではないか。

とにかく、これからは迷ったり悩んだりしたら《考える》。《考える》ことは手段であり、その目的は幸福を得ることだ。ただし、ここで「幸福とはなにか」というテーマも生まれてくる。《幸福》について思いをめぐらせる必要があるだろう（39ページ）。

いずれにせよ、《考える》ことなしに解決はありえないと肝に銘じたい。



# 〈考える〉ことで新しい価値を見出せば 自分の人生を救済する

自分自身の人生を救うための〈考える〉と、単なる言葉遊びのような〈考える〉はどう区別すればいいのか。川上浩司『京大式DEE P THINKING』から探っていく。

〈考える〉とは新しい価値を生み出すことである

ひとくちに〈考える〉といっても、いろいろなケースがあることは簡単に想像できる。たとえば、洋服は青を買うか、黒にするかを選ぶ場合。これも〈考える〉に含めるべきか。「いや、それは〈考える〉ではなく、〈迷う〉だろ?」と反論もすぐに頭に浮かぶ。では、もう少し“高尚な”例を挙げるなら、転職するか、このまま会社にとどまるべきか。そんな選択はどうだろう? 洋服選びほど卑近な局面ではないし、人生を左右する一大

〈考える〉を考える実践①

事のように思える。だから、〈考える〉に含めてもいいのでは？

川上氏は、〈考える〉は「深く考える」ことだとして、こう説明する。

「深く考える」とは、たとえば未知のものを目にしたとき、それ  
は何かを、考えて考えて考え抜いたすえに、まったく新しい概念  
が自分の中に形作られることだ。

ここで注目したいのが、〈考える〉とは「新しい概念」を生み出すこと  
である、という点だ。洋服の色をどちらかに決めたとしても、それは未知  
のものではないから、〈考える〉ことの結果ではない。人生の分岐点にお  
ける決断も「新しい概念」を創り出すことではないから、〈考える〉では  
ない。やはりいずれも〈迷う〉といえるわけだ。

深く考えたすえに得た答えや着想は、割合高い確率で「珍しい、  
変わっている、ユニーク」なものだろう。

つまり、なんらかの新しい価値ともいえるアウトプットをもたらさなけ

れば、〈考える〉ことにはならないわけだ。

### 〈考える〉とは人生で価値のあるものを見出すこと

だが、ここでひとつの疑問も生じる。〈考える〉につねに結果を求める必要があるだろうか。〈考える〉ことそのものを愉しんでも、人生を豊かにすることになるのではないか。川上氏はこう語る。

「深く考える」とは「プロセス」であり、必ずしも「最適解」を出すことではない

一方では、なんらかの結果を出すのが〈考える〉だといい、もう一方では、結果より過程プロセスが大切だという。これは矛盾していないか。

この矛盾を解消する鍵は、「過程」のとらえかたにある。

たとえば、小学校のテストで100点をとったとする。これは「過程」だろうか「結果」だろうか？ テストの点数なのだから「結果」に決まっている。勉強という「過程」を経て100点という「結果」が出たのだ。



そんなふうにあなたは思うだろう。なるほど。理は通る。

しかし、いまのあなたにとって、小学生時代にとったテストの点数は、はたして「結果」だろうか。じつはテストの「結果」でさえも、これまでの人生においては「過程」ではないのか。

もつといえ、テストの点数が「過程」なのか「結果」なのかは本質ではない。テストの点数という事実を、自分にとって価値のあるものにできるかどうかが重要だ。100点をとったことで自分に自信がつき、さらに勉強するようになった。学力が身につく、偏差値の高い学校に進めた。それで人生が拓けたのなら、価値のある「過程」であり「結果」なのだ。

深い思考とは、「道中（思考そのもの）」に意識を巡らせて「砂利」や「石ころ」をかき集め、そこからまだ誰も見つけていなかったような「ダイヤモンド」を見つける作業といえる。

〈考える〉とは、そのプロセスに着目しながら、自分の人生で「ダイヤモンド」といえる新しい価値を見つける作業である。そうすることで、自身を救済することにつながるっていくのだろう。



京大式 DEEP THINKING

著者●川上浩司

出版社●サンマーク出版

つつきは正式版で  
お楽しみください。



© 2001 - 2019 GYAHUN Koubou

2019年1月1日 デジタル版 発行

出版者 米田政行

発行所 Gyahun 工房  
mail@gyahunkoubou.biz